

研究活動・教育向上委員会

新たな子ども家庭分野の資格の検討動向と新カリキュラムに関する学習会を開催

9月3日（金）午後1時30分～4時30分、オンラインによる学習、情報交換会を開催し、13大学35名の方に参加をいただきました。

冒頭、経営協の丸山会長の挨拶のあと、第1部では現在検討中の子ども家庭領域での資格制度の検討動向について、第2部では今年度スタートした新カリキュラムの元での体系的な教育について情報交換をしました。以下、概要を報告します。

<第1部：学習会> 講演「新たな子ども家庭福祉分野の資格の検討動向について」

日本ソーシャルワーク教育学校連盟（ソ教連）の白澤政和会長（国際医療福祉大学大学院教授）から検討の動向について講演があり、その後質疑、意見交換が行われました。

白澤先生からは、国のいわゆる「骨太の方針」の中に、子どもの支援にかかわる者の資格のあり方の検討が入り、それだけソーシャルワークが認知されると同時に関心が高まっていること、ソ教連は福祉専門職の分断を防ぐために社会福祉士や精神保健福祉士と並列の別の資格を作るのではなく、それらを基盤に子ども・家庭に関する内容を上乗せした認定等の仕組みが望ましいと考えていること、これまでの検討により資格の形態にかかわらず社会福祉士養成課程との共通科目が基礎になる方向が確認されており、社会福祉士の学びが活かされることになると思われる等の話がありました。

講演後には、新しい養成体系ができた場合の実習先の確保の問題、本来は児童相談所の在り方そのものの議論も必要ははずだがそこは難しいので専門職の議論になっているのではないかと、保育士の養成課程では社会福祉関係の科目が減ったが保育士との連携も重要である、経営協として新たな資格を導入する場合にはこういう条件を整えてもらわないと難しいといったことを発信して欲しい、などの感想や意見が出されました。

<第2部：情報交換会>

テーマ「新カリキュラムにおける講義と演習・実習の体系的学びについて」

第2部では本年度からはじまった新カリキュラムに関して情報交換を行いました。

事前にアンケートに回答いただき、履修系統図、カリキュラムマップなども提供いただいたことから、それらの資料も画面共有しながら、新カリキュラムの教育目標を実現するために科目配当年次や科目履修の方法などをどのように工夫しているかや、実習をすすめる上での課題などを出し合いました。

参加大学の多くが社会福祉士以外の受験資格取得も可能なカリキュラムを組んでいることから、特に実習時期の配当に配慮していることや、学生の系統的な学びのための学修環境の配慮などが課題であることなどが出されました。

また、実習先との関係では、段階に応じた実習目的の違いやステップアップの構造をどのように理解していただくか、大学の教員と実習先の指導者とが認識をどのようにして共有できるかが課題であるといった意見も出されました。

新カリキュラムについてはこれから実習やその導入に向けた授業が本格化します。そこで、年明けの2月か3月に他のホットなテーマとあわせて、今回と同様の勉強会を開催する予定です。